

一般社団法人 アクト・ビヨンド・トラスト 2024 年度助成企画募集のご案内

「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」

お米から果物など幅広い農産物に用いられ、シロアリ駆除剤や家庭用殺虫剤として身近な暮らしにも入り込んでいる浸透性殺虫剤（ネオニコチノイドおよびフィプロニル）——。近年の急速な研究の進展により、環境中での持続的な慢性曝露による無脊椎動物への時間累積的毒性や、食物連鎖を通じた漁業への脅威などが明らかになりつつあります。世界の科学者コミュニティからは、生態系と生物多様性全体を脅かすことへの警鐘が鳴らされるだけでなく、ヒトの母体から胎児への移行や発達神経毒性を示す研究成果も蓄積されつつあります。

本助成は、予防原則を踏まえて、製薬メーカーの意向や現行の行政判断に左右されない独立の立場からネオニコチノイド系化合物の影響を検証する「調査・研究」活動、浸透性殺虫剤の問題点や最新の研究成果を広く共有する「広報・社会訴求」活動、浸透性殺虫剤を使わないサプライチェーンの確立をめざす「市場“緑化”」活動、国や地方の立法・行政機関に汚染実態調査や規制強化を促す「政策提言」活動を支援します。国の農薬再評価とオーガニック推進が進むいま、確実な規制強化へつながる成果を期待しています。ふるってご応募ください！（応募要項など申請書類一式は下記リンクよりどうぞ）

<https://www.actbeyondtrust.org/info/17753/>

1. 応募資格： ネオニコチノイド系農薬（およびフィプロニル）に関する問題提起や、使用の削減ないし中止に取り組む個人および団体（ボランティアグループ、NPO/NGO、公益法人、研究機関、生産者など。地域、法人格、活動実績は不問）
2. 助成分野と金額： 「調査・研究」「広報・社会訴求」「市場“緑化”」「政策提言」分野（いずれかを選択）
1 企画あたりの助成額： 上限 100 万円
※2 部門以上にまたがる案件は、1 部門を超えるごとに 1 部門あたり 50 万円を加算
3. 助成対象期間： 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の間に実施される活動
4. 応募受付期間： 2023 年 12 月 14 日～2024 年 1 月 31 日
5. 問い合わせ先： 一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト 助成係
電話：070-6551-9266（10：00～19：00）
Email：grant@actbeyondtrust.org
<http://www.actbeyondtrust.org>
<https://www.facebook.com/actbeyondtrust>
【12/28～1/8 は年末年始休業】

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストは、自然環境と人間生活の調和を目的とした市民や NPO・NGO の活動を支援する、独立した民間基金です。問題解決のための具体的・効果的・創造的なアクションを重視し、資金援助、コンサルティング、技術および人材提供、トレーニングなどを行なっています。詳しくは上記 web サイトや Facebook ページをご覧ください。

これまでの企画から

2023 年度に採択された企画例をご紹介します。

これまでに実施された企画は、アクト・ビヨンド・トラスト web サイトの「助成活動(ネオニコチノイド系農薬問題)」をご参照ください。2022 年度までの各助成対象企画について報告書をご覧いただけるほか、同サイトの「助成先活動情報」では、2023 年度助成対象企画の活動状況をリアルタイムで取り上げています。 <http://www.actbeyondtrust.org>

■ 子どもたちのオシッコと母乳のネオニコ調査(調査・研究、広報・社会訴求)

藤枝市内と近隣市に居住する子どもと母親を対象に子どもの尿と母親の母乳を採取し、ネオニコチノイド系農薬の残留を調査。この時に参加者の普段の食事内容などアンケート調査も実施する。調査結果を共有し、食物と農薬の身体への残留の関連を可視化する。それと並行してネオニコチノイド系農薬など暮らしの中にある農薬や化学物質がもたらす健康や環境への影響などの学習会を講師を招いて実施し、正しい知識を身につけ普段の食や暮らしのあり方を見直すきっかけを作る。

■ デトックスプロジェクトで疑念の残る私設井戸水の調査とオーガニック関連の店舗とのコラボによるカエルとのトーク動画の拡大(調査・研究、広報・社会訴求)

- 1) 飲料水に関する水の勉強会を行う。
- 2) 今年度、10 人のモニターさんでデトックスプロジェクトを実施した結果、八代市で敷地内にある井戸水を使われているモニターさんの1回目の尿検査の数値が高かった。その原因は井戸水ではないかと疑われる。2023 年度の事業として、このモニターさんの井戸水を、年間を通して調査する。
- 3) 今年度作成したカエルの動画はとても評判がいいので、オーガニック関係のお店で「見る会」的なものを開き、広げていく。

■ 農家と消費者の参加型調査による農薬の圃場生態系への影響比較(調査・研究、広報・社会訴求)

兵庫県丹波市と滋賀県高島市において、田植及び出穂期の前後に生き物調査及び農薬の残留濃度分析を行い、浸透性農薬を中心に農薬による圃場生態系への影響を検証する。有機農業と慣行農業の水田及び水源からサンプルを採取し、ポスト・ネオニコ系農薬を含めて残留濃度を解析する。その結果を生き物調査と対照する。生き物調査のうち、2 回は子どもと親を対象とする参加型調査とする。成果は報告会、冊子、SNS により情報発信する。

■ ネオニコチノイド系農薬による母性行動への継世代影響(調査・研究)

先行研究では、胎子・授乳期でのネオニコチノイド系農薬(ネオニコチノイド)曝露によって母性行動の変化がみられ、継代的に食殺や育子放棄が増加した。この原因の一端としてオキシトシンおよびプロラクチンの分泌減少が示唆された。ネオニコチノイドが母性行動にどのような影響を及ぼすのか明らかにすべく、分娩前の巣作り行動や分娩後の産子のリトリーブング試験から、母性行動を評価する。さらに、その変化が継代的に引き継がれるのか検証する。

■ 岐阜県の給食オーガニック化を進める上映会(広報・社会訴求)

「食の安全を守る人々」の上映会。「静かな汚染ネオニコチノイド」を同時上映。昨年は 13 会場で実施。今年度は現在 6 市 1 町で開催予定。各地で教育委員会の後援を取り、案内チラシを小中学校保育園に全員配布する。各会場で実行委員会を作り、上映後地域のオーガニック給食推進の母体に育成する。各地で有機農家・地元議員・地元農家を含めた座談会を開催し、オーガニック化を一歩ずつ進展させる。

■ 脱ネオニコで地域活性化(広報・社会訴求)

ネオニコの最大の脅威は人の健康への重大な影響だが、それを一般の人にも理解しやすい可視化した形で証明するのは現時点では非常に難しく、社会訴求する上での大きな壁となっている。そこで、地域から農薬の象徴としてのネオニコを追放することにより、豊かな自然を取り戻し、若い移住者を増やし、地域活性化に成功した、あるいはしつつある地域の例を取材・記事化し、ネオニコへの一般の関心を広げるとともに、行政の脱ネオニコの取り組みを促す。

■ ため池や自然止水域におけるネオニコチノイド系農薬の汚染状況と絶滅危惧水生昆虫の生息状況の相関調査 V(調査・研究)

過去 4 年間の貴助成により、ほとんど情報がなかった自然止水域での汚染実態と昆虫相調査が進捗した。結果、1)国内広域で検出、2)絶滅産地で高濃度検出、現存産地でも検出、3)汚染は地下水系に及ぶ、など深刻な実態を明らかにしてきた。この間新型コロナウイルスの影響を強く受け、調査は完遂できない状況が続いている。継続申請する本研究では、農薬濃度が高い時期の未調査地域の調査、虫体の汚染実態試験、農薬の暴露試験研究などを実施し、研究を深化させたい。